

医師及びメディカルスタッフのための

第33回糖尿病セミナー 「糖尿病性腎症の進展阻止を目指して」

日時 2017年2月11日(土・祝) 13:00~16:40(受付開始12:00~)

会場 新都市ホール・そごう9階 (定員:1000名)

プログラム 共催 神奈川県保険医協会／ノボ ノルディスクファーマ株式会社

体験報告 テーマ:『だいちゃん放浪記 縄文杉編』

演者: H.E.Cサイエンスクリニック 薬剤師 平山 大徹氏

特別講演1 テーマ:『糖尿病と糖尿病腎症の克服』

演者: 金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学 教授 古家 大祐氏

特別講演2 テーマ:『地域における糖尿病重症化予防の取り組み』

演者: 市立八幡浜総合病院 医療情報管理部長 酒井 武則氏

レクチャー① テーマ:『eGFRの見方』

演者: H.E.Cサイエンスクリニック 副院長／糖尿病肥満治療研究所 所長 調 進一郎氏

レクチャー② テーマ:『糖尿病患者における polypharmacy』

演者: 医) 江口医院 院長 江口 一彦氏

レクチャー③ テーマ:『最近のインスリン製剤とその使い方』

演者: かなもり内科 院長 金森 晃氏

レクチャー④ テーマ:『高齢者糖尿病の血糖コントロール目標』

演者: まちむら内科クリニック 院長 町村 英郎氏

申込方法

参加費 事前振込 3,000円(当日支払い4,000円) ※お振込後の返金は出来ません。

★必ず事前にFAX等でお申し込み下さい。その後、下記口座へ1/30(月)までに参加費をお振込みください。(お振込みが期日までに間に合わない場合は、事務局へお問合せ下さい)また、その際、通信欄に「参加者氏名(複数の場合は全員分)」と「糖尿病セミナーの参加費」である旨をご記入ください。資料は当日お渡します。

振込先 郵便局口座名: 神奈川県保険医協会 口座番号: 00260-2-2220

問合せ 神奈川県保険医協会 担当: 大井、渡辺、園田 電話 045-313-2111 / FAX 045-313-2113

～セミナーにお申し込みをされた方へ～

※お申し込みが受け付けられた旨の連絡はしていません。(別段連絡が無い限り受け付けられております)

※会場は座席により空調の利きに偏りがあります。必要な方は上着、ひざかけ 等をご用意ください。

【取得単位】

- ・ 神奈川県糖尿病療養指導士認定のための研修会 (5単位)
- ・ 日本糖尿病療養指導士認定・更新のための研修会 (第2群1単位) 申請中
- ・ 日本糖尿病協会 療養指導医 (歯科医師登録医) 取得のための講習会
- ・ 日医生涯教育認定講座 CC 申請予定

第33回糖尿病セミナー 参加申込書 << FAX 045-313-2113 >>

代表者に○	フリガナ	参加者氏名	職種

代表者連絡先ご住所
どちらかに○のチェック
(自宅 又は 施設) 〒

ご連絡先TEL

ご連絡先FAX

施設名

(自宅 又は 施設)

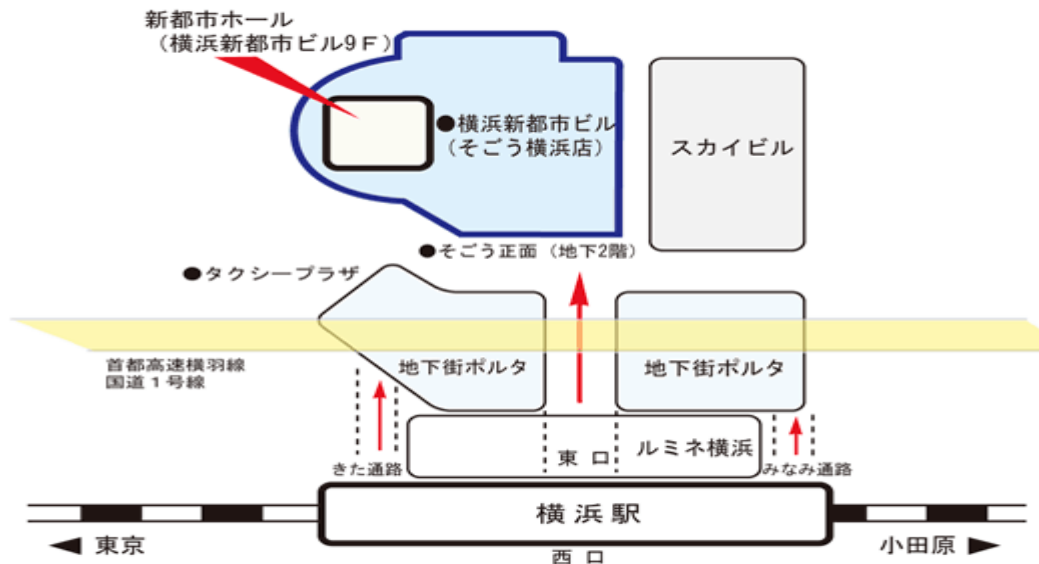
()

(自宅 又は 施設)

()

★複数お申し込みの場合は、全員のお名前・フリガナ・ご職業をご記入下さい。■お申込み後、参加費をお振込み下さい。

【新都市ホール会場図】



【講演要旨】

※当日多少の内容変更もあります。あらかじめご了承下さい。

■ 金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学 教授 古家 大祐氏 ■

糖尿病の克服には、生活習慣の集積が基盤となる。それらに対する方策を概説する。さらに、糖尿病腎症（腎症）から透析導入あるいは腎移植に至る患者数は、未だに多いことは事実である。したがって、早期に腎症を診断するとともに、チーム医療の介入によって包括的に、血糖のみならず、血圧、脂質異常、体重管理を行うことが必須である。なかでも、低血糖を生ずることなく、厳格な血糖管理が求められる時代になってきた。本講演では、それぞれ単独では低血糖を起こすことなく、血糖管理が出来る DPP-4 阻害薬、SGLT2 阻害薬に大きな期待がかかっていることを概説したい。最後に、食事療法とくにたんぱく質制限への期待と現状の問題点を概説する。

■ 市立八幡浜総合病院 医療情報管理部長 酒井 武則氏 ■

少子高齢化を迎えた我が国において地方は既にその最前線にある。医療崩壊を経験した当地域は病診連携により急性期医療と糖尿病診療を維持してきた。更に縮小の一途である医療資源の中、行政を中心とした糖尿病疾病管理事業と多職種協働による『八幡浜市糖尿病サポーター（YDS）制度』、そして疾患管理 MAP と $\Delta eGFR$ を用いた JMAP 方式による糖尿病性腎症の重症化予防に取り組んでおりその現状を報告する。

■ H.E.C サイエンスクリニック 副院長／糖尿病肥満治療研究所 所長 調 進一郎氏 ■

腎機能の評価指標として最近では BUN やクレアチニンではなく、 $eGFR$ が使用されるようになりました。BUN やクレアチニンではなぜいけないの？ $eGFR$ は正確なの？自験例を交えて、 $eGFR$ の有用な使い方を解説します。

■ 医) 江口 医院 院長 江口 一彦氏 ■

複数の薬剤を併用する事によっておこる諸問題 (polypharmacy) に関心が高まっています。主に医療経済的問題、薬剤有害事象問題です。特に糖尿病患者は様々な臓器障害を有している事や、低血糖が重篤なリスクである事から十分な認知が必要です。

■ かなもり内科 院長 金森 晃氏 ■

インスリンが発見されてから 95 年。その間インスリンは糖尿病治療に多大なる貢献をしてきたが、インスリン療法は今も進化を続けている。症例を紹介しながら最近のインスリン製剤の使い方について考えてみたい。

■ まちむら内科クリニック 院長 町村 英郎氏 ■

熊本宣言で合併症抑制の目標を 7%未満と提唱されましたが、高齢者の著増により昨年新たなコントロール目標が提示されました。従来より個別化が重視されてきましたがより明確な基準が示されその見方、運用法、評価など臨床現場に即した目線で解説していきます。